

第6回意見交換会（12/19）アンケートまとめ〔抜粋〕

（1）求めるボランティア像(こんな人が案内してくれたいいな)

- ・ご自身が楽しんで活動している。エコを実践している。
- ・質問に答えてくれる人。でも、わからないことはわからないといえる人。
- ・元気、やさしさ、笑顔、情熱、聞き取りやすく活舌の良い説明、身だしなみ、美人（男女とも）
- ・見学者の顔を見ながら話ができる人。相手のレベルに合わせられる人。
- ・ここで体験したことで、何かを持って帰ってもらいたいと思える人。
- ・楽しませてくれる人。ユーモアのある人。
- ・長く活動してくれる人。（介護や子育てで一時離れても戻ってきやすい雰囲気）
- ・差別をしない人。
- ・富士市の環境について（ごみや3Rに限らず）自分の思いをもっている人。

（2）ボランティアに必要な要素とは（知識、スキル、マインドなど）

- ・知識（全体的、専門的、生活感）とある程度の経験
- ・わかりやすく伝える技術、相手を受け入れ合わせる技術
- ・名物おじさん・おばさんの（個性の尊重）
- ・奉仕のマインド、笑顔
- ・常に学ぼうとする意欲

（3）こんなボランティアや案内はイヤだ！

- ・知識自慢
- ・話のヘタな人、説明が不明確で分かりにくい人。
- ・自己中心的、一方的、自分自身を自慢する人、自分の意見を押し付ける人
- ・上から目線、怖い
- ・自分の意見、意思を通す人、知識の押しつけ

以上

ボランティア活動、4つの原則

ボランティア活動の上で大切なポイント。それがボランティア活動の4原則です。

自分からすすんで行動する——「自主性・主体性」

ボランティア活動は、自分自身の考えによって始める活動であって、だれかに強制されたり、また、義務として行わせる活動ではありません。友人から誘われたり、あるいは、たとえば学校や会社の行事として参加したり、テレビや新聞で見かけたり…。どんな小さなきっかけでも、自分自身の「やってみよう」という気持ちを大切にすることから、ボランティア活動がはじまります。

ともに支え合い、学び合う——「社会性・連帯性」

わたしたちの社会にはさまざま課題が存在します。こうした課題を発見し、改善していくためには一人ひとりが考えることと、多くの人びとと協力しながら力を合わせて行動することが大切です。

見返りを求めない——「無償性・無給性」

ボランティア活動は、活動目的の達成によって、出会いや発見、感動、そしてよろこびといった精神的な報酬を得る活動であり、個人的な利益や報酬を第一の目的にした活動ではありません。（ただし、交通費や食費、材料費などの実費弁償については無償の範囲としています）

よりよい社会をつくる——「創造性・開拓性・先駆性」

目の前の課題に対して、何が必要なのか、そして、改善のためにはどうすればよいか。ボランティア活動では、従来の考え方にとらわれることなく、自由な発想やアイデアを大切にしながら、方法やしくみを考え、創り出していくことが大切です。

出典) 東京ボランティア・市民活動センター